

平成21年 4月10日現在

研究種目： 基盤研究(C)
研究期間： 2006～2009
課題番号： 18530093
研究課題名(和文) 公共資源配分の政治経済学——空港発着枠市場の制度化ゲームに見る「失敗」の実証分析
研究課題名(英文) A political economic analysis of the allocation of public property: Empirical investigation into the causes of failure in the game of institutionalization of airport slot market
研究代表者
福井 秀樹 (FUKUI HIDEKI)
愛媛大学・法文学部・准教授
研究者番号：00304642

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・公共政策

キーワード：資源配分、市場メカニズム、空港、発着枠、定量的分析

1. 研究計画の概要

- (1) 本研究は、公共資源配分への市場メカニズム導入に関する実証的な政策分析を行う。
- (2) その際、市場メカニズム導入を「市場の制度化ゲーム」と捉える政治経済学の動学的視座から、導入がなぜ「失敗」したのかをデータに基づき定量的に分析する。
- (3) 具体的には、米国における空港発着枠配分への市場メカニズム導入の「失敗」を分析の対象とする。本研究はこの政策に関するデータを包括的に用いた世界初の定量的分析である。

2. 研究の進捗状況

空港分の発着枠取引データ (September 12, 1994 - July 1, 1999) を用いた回帰分析により、発着枠取引市場の競争性の検証を試みた。その結果、ケネディ空港とオヘアの3空港では、売買/貸借される発着枠の数と発着枠貸借期間のいずれも、関連会社間の取引におけるそれらよりも、ライバル会社間の取引におけるそれらよりも、統計的に有意に多いことが判明した。これに対して、しばしば新規参入者や GAO などにより指摘されてきた「新規参入者」または「非大手」それ自体に対する取引上の差別の証拠は、統計的には認められなかった。これにより、空港発着枠配分への市場メカニズム導入は、発着枠保有航空会社によるライバル航空会社への差別的取引により、上手く機能しなかったことが明らかとなった。

ただ、興味深いのは、ナショナル空港では、ライバル航空会社への差別的取引の証拠が必ずしも強くは認められない、ということである (ラガーディア空港は明確な判断を下しがたい面がある)。実際、ナショナル空港については、ライバル航空会社が発着枠取引において差別を受けていることを示す統計的に有意な証拠は得られなかった。また、交差項を用いて、「新規参入の非大手ライバル航空会社」が発着枠取引における主要な差別の対象となっているかどうかを検証した際には、むしろ反対に、「新規参入の非大手ライバル航空会社」は「既存の大手関連航空会社」よりも多くの発着枠利用機会を、市場における発着枠取引を通じて、得ている、という分析結果さえ得られた。標本数が多くないため、この分析結果の解釈には多大な注意が必要である。しかし、それは、非常に興味深い示唆 (市場がライバルに対して差別的でない形で上手く機能してきたかもしれない、という示唆) を有するものであるため、今後、さらに分析する必要がある。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

本研究は、空港発着枠取引データを包括的に分析したものとして、現時点では、世界でほとんど唯一のものである。その研究成果は、国内外の学会 (日本交通学会、Air Transport Research Society, Transport Chicago) で報告され、国内では査読付の学会誌 (『交通学研究』)

に掲載されている（国外のジャーナル (Transportation Research Part B) でも現在、査読中である）。また、研究内容が評価され、東京大学で開催された国際セミナーに、航空経済学の主導的な研究者の一人である Jan K. Brueckner (University of California, Irvine) とともに、招待講演者として招かれてもいる。

以上の理由により、本研究は、おおむね順調に進展していると判断する。

4. 今後の研究の推進方策

本研究では、米国における発着枠市場の導入・実施の動態を分析し、市場方式での発着枠配分がプレイヤーの戦略的行動により競争的に機能しない場合があることを解明してきた。この分析過程で、市場のルールを変質させその機能を阻害するプレイヤー間の駆け引き（ゲーム）が三層構造を形成していることも明らかとなった。即ち、(1) 発着枠取引における取引相手・期間・価格をめぐる事業者間の駆け引き、(2) 取引後の運航競争に関する条件をめぐる事業者間の駆け引き、そして(3) 発着枠配分への行政的介入等の実効化メカニズムをめぐる政治・行政・事業者の三つ巴の駆け引きである。この三層構造を考慮すると、効果的な市場及び実効化メカニズムの設計には、駆け引き（ゲーム）の三層全てについての分析が必要である。ところが、本研究の分析は、第1の層の分析にとどまっている。そのため、市場メカニズム導入・実施の動学ゲームが、どのようにして、また、どの程度、発着枠市場及びその実効化メカニズムの十分な機能を妨げるに至ったのか、実は、十分に解明されていない。こうした限界を改善すべく、第2、第3の層へと分析を拡張することにより、本研究の一層の充実を図る。

幸い、本研究を上記の主旨に従って再構成した研究計画への科学研究費補助金の内定が決まっている。今後は、この新たな計画（課題番号：21530122）にそって研究を進めていく。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 4件）

1. 福井秀樹「米国における空港発着枠取引の定量的分析——1994-1999年」『交通学研究』（日本交通学会年報）、2008年研究年報、231-240、2009（査読有）
2. 福井秀樹「(研究ノート) 米国における空

港混雑管理——現状と課題」『愛媛法学会雑誌』（愛媛大学法学会）、第35巻1・2・3・4合併号、221-237、2009（査読無）

3. 福井秀樹「オヘア空港における発着枠取引の分析」『交通学研究』（日本交通学会年報）、2007年研究年報、179-188、2008（査読有）
4. 福井秀樹「書評：秋吉貴雄著『公共政策の変容と政策科学——日米航空輸送産業における2つの規制改革』（有斐閣、2007年）」『公共政策研究』（日本公共政策学会年報）、7号、170、2008（査読無）

〔学会発表〕（計 5件）

1. 福井秀樹 / Hideki Fukui「米国における空港発着枠取引の経験的分析 / Empirical Analysis of Airport Slot Trading in the U.S.」（招待講演）、ITPU (International Transport Policy Research Unit), The 4th International Seminar: Airport Congestion Issues -- Theory and Practices, March 19, 2009, Sanjo Conference Hall, Hongo Campus, The University of Tokyo
2. 福井秀樹「米国における空港発着枠取引の定量的分析——1994-1999年」、日本交通学会第67回研究報告会 10月4・5日開催 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
3. Hideki Fukui, "An Empirical Analysis of Airport Slot Trading in the US," Air Transport Research Society (ATRS), 12th World Conference, July 6-10, 2008, Athens (Athens International Airport)
4. 福井秀樹「オヘア空港における発着枠取引の分析」、日本交通学会第66回研究報告会 10月6・7日開催 中央大学多摩キャンパス
5. Hideki Fukui, "A Quantitative Analysis of Slot Transactions in the Slot Buy/Sell Market under the High Density Rule (Poster Presentation)," Transport Chicago 2007, June 1, 2007, Illinois Institute of Technology

〔図書〕（計 1件）

1. 福井秀樹「空港発着枠配分の日米比較制度分析——共有的資源の配分に関する一考察」中村則弘・高橋基泰編『国際比較研究叢書 3 グローバリゼーションに対抗するローカル——相互補完の可能性』明石書店、67-103、2008（査読無）